

避難指示で必ず避難 避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	災害発生又は切迫 緊急安全確保	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
4	災害のおそれ高い 避難指示	避難指示(緊急) 避難勧告
3	災害のおそれあり 高齢者等避難	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	気象状況悪化 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化のおそれ 早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

【問い合わせ先】消防本部 消防防災課
☎77-4118

5月20日より、避難情報などの内容が一部変更になりました。

従来の警戒レベル4の避難勧告の表現は廃止となり、新しく警戒レベル4は「避難指示」となります。

避難に時間がかかる人は、警戒レベル3の発令で危険な場所から避難しましょう。また、その他の人も警戒レベル3の発令で避難準備の開始や危険を感じたら自主的に避難をして下さい。

危険物安全週間

危険物安全週間ポスター



6月6日(日)～12日(土)は、ガソリンスタンドなどで、危険物を取扱う際の安全性の確立や、皆さんの危険物に対する意識の高揚と啓発を図る事を目的として危険物安全週間が定められています。

令和3年4月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R3累計
火災	0	1	0	0	0	1	1
救急	11	8	7	2	0	28	136

(令和3年4月30日現在)

上島町消防署 ☎77-4118

1. 点検する

警報器のボタンを押す、またはひもを引いて音を確認する



☆正常な場合

正常をお知らせするメッセージまたは『ピー ピー ピー 火事です』と警報音が鳴ります。
※警報音はメーカーや製品によって異なります。

☆作動しない場合

電池が正しくセットされているか電池が切れていないか確認してください。
電池が正しくセットされているのに鳴らない場合は、本体内部の電子部品が故障している可能性がありますので、住宅用火災警報器本体を交換して下さい。

☆外観が汚れている場合

傷や汚れ、ほこり等が付着していれば布で拭き取って下さい。



住宅用火災警報器の維持管理について

住宅用火災警報器の交換の目安は設置から約10年とされており、10年以上経過しているものを使用し続けた場合、電池切れや電子部品の故障などにより、火災

の煙や熱を感知しなくなる可能性があります。大切な命を守るため、定期的な作動点検を行い、10年を目安に住宅用火災警報器の交換をお勧めします。



1 梅雨期に備えたかんきつの病虫害防除

6月は、梅雨入りを迎え病虫害の防除が大切な時期となります。

特に、降雨で感染する黒点病は、販売目的の生産では、果実の外観品質を大きく損なう病気です(外観を損なうだけで果実内容には影響しません)。本病は、予防散布が基本で、今月から、ジマンダイセン水和剤やペンコゼブ水和剤600倍を約1か月ごとに8月ころまで散布します。あわせて病気の発生源となる枯れ枝の除去を徹底しましょう。せとか、はれひめなどは、黒点病に感染しやすい品種なので、降雨の多い時期は25日間隔(または、防除から200ミリの積算降雨量)で次回防除を行います。

また、例年、カイガラムシ、ミカンサビダニの発生の多い園で

は、6月上旬にモベントフロアブル2000倍を、下旬ごろにコテツフロアブル6000倍とアタックオイル150倍を散布します。

2 かんきつの荒摘果

「温州みかん」や「はれひめ」などの中玉品種は、極端に着果の多い樹以外は、6月の荒摘果を行わず、8月以降の仕上げ摘果を重点に行います。一方「愛媛県試第28号」「不知火」など大玉果実を目指す中晩柑類は、生理落果の終る6月中下旬から直花や奇形果を除く早期の荒摘果を行います。

3 かんきつ苗木の夏季管理

今春植え付けたかんきつ苗木を早期に成長させるための夏期管理のポイントについて解説します。

① 夏芽で樹冠の拡大を図る

苗木の成長は、梅雨期以降に発生してくる新芽(夏芽)により樹冠の拡大が図られます。この夏芽を健全に育てられるかがポイントになります。

② 苗木管理のポイント

かんきつ類の多くは頂芽優勢とい、枝先の芽が最も優勢に伸びる性質があります。充実した春枝の先端部の夏芽を一本に整理し、支柱

等に誘引して伸ばします(図1)。

② 施肥管理

苗木の施肥は、定植約1か月後ころから11月ごろまで、月に1回、1本当たり化成肥料を軽く一握り、幹の周りに施用します。また、新芽が伸び始めたら10日おきに尿素500倍や液肥800倍の散布も有効です。後述のミカンハモグリガ防除の際に混用散布も可能です。

③ 新芽に発生する害虫防除

せっかく発芽してきた新芽に害虫が付いてしまうと芽の伸長が悪くなります。夏芽に被害を与える害虫として、ミカンハモグリガがあります(写真1)。新芽が1cm程度伸びたところから、約7日間隔で2～3回、農薬を散布します。薬剤はアドマイヤーフロアブルまたはモスピラン顆粒水溶剤各4000倍、またはエクシレルSE5000倍などが有効です。

その他、アゲハチョウの幼虫(写真2)が新葉を食害します。こまめに見てまわり早期に取り除くか、若齢幼虫の時期に、エクシレルSE5000倍、モスピラン顆粒水溶剤4000倍の散布で効果があります。1年生苗木に限り、エクシレルSE1000倍液を苗木全体に30ml程度の1回散布で前記2種類の害虫

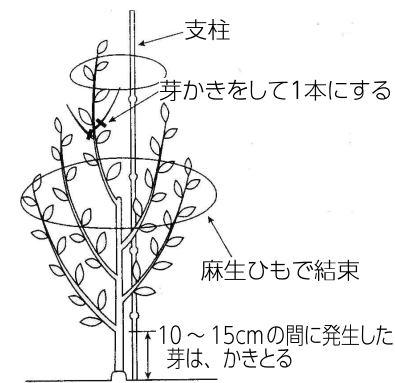


図1 枝管理と支柱誘引

被害を抑えることができます。

④ その他管理
苗木は、成木よりも根が浅く少ないため少雨で土壌が乾燥する時には早めにかん水を行いましょ。株周りに乾燥防止と抑草を兼ねて、敷き草や黒ポリマルチ被覆も有効ですが、施肥を考えると、除草をこまめに行い雑草で苗木が隠れることのないように管理を行ってください。